日本鐵鋼協會記事

理事會　昭和5年12月10日(水)午後5時開會　**出席者**　俵　國一君　河村　驍君　松下長久君　香村小錄君　鹽田泰介君　服部　漸君　室井嘉治馬君　三島德七君　**協議事項**　1. 會誌「鐵と鋼」印刷體裁改善に關する件、(第十七年第一號より組版方二段とすること、紙質70斤とすること從來は65斤なり)一月號より實行可決、2. 日本鐵鋼協會第6回講演大會開催準備に關する件. 3. 昭和6年度開催の研究部會研究事項選定に關する件、4. 日本工學會に於て研究を要する萬國工學會設置可否に關する委員本會より室井嘉治馬氏を推薦の件、(承認) 5. 入退會者承認　其他會計、會務に關する諸件等にして午後8時閉會す。

編輯委員會　昭和5年12月3日(水)午後5時開會　**出席者**　俵　會長　石原善雄君　田中清治君　室井嘉治馬君　足立泰雄君　三島德七君　鹽澤正一君　廣瀨政次君　**協議事項**　1) 鐵と鋼第17年1號上揭原稿選定に關する件、2) 昭和7年1月號より會誌體裁改善に關する精細協議、3) 昭和7年4月上旬開催の第6回講演大會に關する諸件、其他編輯上印刷物等に關する諸件等にして午後8時30分閉會す。

鐵と鋼第十七年第一號上揭決定論文

鎔鑛爐に於ける化學反應(第五回講演大會講演)……俵　國一

電氣爐に於ける白銑及鼠銑の生成因子並に黑鉛化の機構に關する研究(第五回講演大會講演)……向山幹夫

鋼の纖維狀組織と其性質(第五回講演大會講演)……玉置正一、永澤清

入退會者承認　入會者　(自11月12日　至12月10日)

居所又は宛名先	稱號及勤務先職業	會員別	入會者氏名	紹介者
兵庫縣武庫郡大社村森貝字小山田三三二ノ九	住友合資會社理事	正	松本順吉君	加藤榮君、村松橘太郎君
大連市星ケ浦公園內別莊二〇號、根橋方	大連機械製作所鑄物職場	准	原口太吉君	高田友吉君

退　會　者

正會員　池田猛　立石信郎　日向庄作　山本貞次郎　坂　堪　服部重春　**准會員**　石坂貫一　黑瀨種吉　椋本正雄　若林昌之　岡庸三　香川宗明　宮村通三

日本鐵鋼協會服部博士記念資金取扱規則書

第一條　本會ハ本規則ノ定ムル處ニ依リ服部博士記念資金寄附者ノ申出ニ係ル左ノ指定條件ヲ實施スルモノトス

一、本記念資金ハ服部博士ノ名ニ於テ左記條件ヲ以テ日本鐵鋼協會ニ之ヲ寄附スルコト

二、本記念資金ノ一部(千圓以內)ヲ以テ服部博士ノ胸像ヲ作成シ之ヲ贈呈スルコト

三、本記念資金ノ保管ハ日本鐵鋼協會ニ於テ確實ナル信託會社ニ現金又ハ帝國公債ヲ以テ信託スルコト

四、本記念資金ノ使途及其ノ決定ハ左ノ方法ニヨル

(一) 鐵鋼ニ關スル學術並ニ技術ノ發達上ニ貢献シ特ニ推奬ニ値スル者ニ對スル表彰並ニ其ノ他鐵鋼ニ關スル調査研究資金ニ充當スルコト

(二) 前項ノ表彰ニ關スル調査ハ毎年一回以上之ヲ行フコト

(三) 右ノ表彰並ニ調査研究資金ノ支出ニ就テハ日本鐵鋼協會ノ選出シタル委員(委員中ニ官立製鐵所員ヲ加フルコト)協議ノ上之ヲ決定スルコト

五、本記念資金ハ夫レヨリ生ズル利息ノミヲ使用スルモノトス

六、日本鐵鋼協會ハ毎年一回本記念資金ノ收支計算ヲナシ之ヲ日本鐵鋼協會々誌ニ掲載報告スルコト

第二條 第一條ノ條件中第四項ノ三ニ該當スル記念資金委員ハ本會理事並ニ理事會ノ推薦ニカヽルモノニシテ委員總數ハ二十五名以内トシ其ノ任期ハ二ケ年トス。

但シ連續重任ヲ妨ケセサルモノトス

第三條 前項ノ委員ハ記念資金委員會ヲ組織ス

第四條 記念資金委員會ノ事務ヲ處理スル爲メ左ノ役員ヲ置ク

委員長 一名 幹事 四名

第五條 委員長ニハ日本鐵鋼協會々長、幹事ニハ理事之ニ當ルモノトス

第六條 記念資金利子ヲ以テ左ノ事業ヲ行フ

一、服部賞牌ノ授與

二、服部賞金ノ授與

三、鐵鋼ニ關スル調査、研究資金ノ補助並ニ參考資料ノ調製配布

第七條 服部賞牌ハ鐵鋼ニ關スル學術上及技術上ノ進歩發達ニ顯著ナル貢献ヲ爲シタル者ニ授與スルモノトス

第八條 服部賞金ハ鐵鋼ニ關スル有益ナル論文ヲ發表シタル者又ハ實地作業上技術ノ改良及發達ニ貢献シタル者ニ授與スルモノトス

第九條 服部賞牌及服部賞金ハ通常總會ニ於テ之ヲ授與スルモノトス

第十條 記念資金委員ニシテ服部賞牌又ハ服部賞金授與候補者ノ推薦ヲナサントスルトキハ其ノ理由ヲ附シテ記念資金委員會ニ之ヲ提議スルモノトス

第十一條 記念資金委員會ハ豫メ候補者ノ資格ヲ審査シ之ヲ全委員ニ通知シテ其投票ヲ求メ受領者ヲ選定スルモノトス

第十二條 前條ノ議決ニ關スル投票ハ無記名トシ有効投票總數ノ四分ノ三以上ノ賛成アルコトヲ要ス

第十三條 第六條第三項ハ同條第一、第二項ノ實施以外餘裕アリタル場合ニ限リ之ヲ實施スルモノトシ記念資金委員會ノ承認ヲ經ルヲ要ス

第十四條 毎年一回本記念資金ノ收支計算ヲナシ之ヲ本會ノ特別會計トシテ通常總會ニ報告シ日本鐵鋼協會誌『鐵と鋼』ニ掲載スルモノトス

以上去る 10 月 1 日評議員會に於て決定す。

日本鐵鋼協會第五回講演大會概況報告

（室蘭市に於ける）

水谷實行委員長報告

本會の講演大會は既に東京（二回）、八幡（一回）、大阪（一回）に於て開催せられたり。本年は北海道室蘭市に第五回講演大會を開催することに協定成り、俵會長は東京側實行委員長となり、日本製鋼所取締役會長水谷工學博士を室蘭側實行委員長とし、東北帝大教授金屬材料研究所々長本多理學博士を研究部會委員長とし、當春より着々計畫の歩を進め茲に昭和5年10月6日より同月14日に至る9日間に亘り講演會、研究部會、工場見學、及觀光より成れる大會を擧行せり。

大會のプログラムは順調に進行し、打續く快晴に會期中の氣溫最高攝氏23·2度、最低攝氏7·7度平均攝氏14·8度にして多數の參加會員は此の北海の淸秋に惠まれ、本大會が實に豫想以上の盛況裡に始終したるは欣幸とする所なり。是偏に關係諸官衙、諸會社及室蘭石炭業組合等の多大なる援助、熱心なる盡力と會員の熱誠とに依るものにして、本會の感謝措く能はざる所なり。

次に日程を追ひ大會の概況を記述せんとす。

第1日　10月6日（月）　金屬材料研究所見學（仙臺）

森の都仙臺の秋はすがすがしく晴れて日本鐵鋼協會第五回講演大會を壽ぶくかに見えた。靑葉山城の森も色とりどりに彩られ靜かな學都仙臺に秋の色を深く香ひ漂はして居る。其の森に圍まれた金屬材料研究所の赤い煉瓦コンクリートの建物が一入映へて美しい。10月6日鐵鋼協會大會第一日の見學を茲に行ふ。

見學第一班は俵會長、齋藤博士等を初めとし會員34名これに參加した。

この金屬材料研究所は人も知る本多光太郎博士の主宰するもので、我國に於けるこの種の研究所として最も大く且つ權威あるものの一つである。

午前9時會員の參集を待つて本多所長、石原博士（見學委員）等の案內によつて所內隈なく一巡參觀した。試料室には種々同所の考案になる研究器械を見、研究材料の取扱ひに就いて稗益するところ頗る大であつた。而して近年の研究にかゝる各種の研究結果の說明あり會員に寄與する處多きものであつた。附屬工場の設備及び規模はこの種の研究所として他に例を見ざる程完備し會員を敎ふる所大なるものがあつた。

同所に於ては學理の研究と共に之が實地應用の點に特に留意するものときく。從つて研究の實際化に對して之に適應する樣種々なる設備を見るのである。

近年從來の研究範圍を擴め水素を利用して低溫に於ける金屬の性質の研究、砂鐵及び輕合金に關する研究等を行ふ事となり、之に必要な萬般の設備が着々進行中であつた。これが完成の曉には從來に

一層の光彩を加ふべきは言ふ迄もないと信ずる。邦家の爲め其の一日も速かならむ事を切望する。

正午一同同樓上にて午餐、午後1時より第二班數名の會員參集第一班と同樣所內一般を見學した。

參加會員一同、所長を初め所員各位の御懇篤なる案內を感謝しつゝ同夜北海道に向つた。

本所見學擔當大會委員は石原寅次郎博士であつた事を附記す。

第2日 10月7日(火) 洞爺湖行

本州方面よりの參加者なる俵會長を始め大部分の一行は午後 12 時 30 分函館を發し、稚內行の列車に乘車し洞爺湖に向ふ。本列車は前夜9時 49 分仙臺發の列車に連絡せるものなり。橫田副實行委員長及志水實行委員は一行を午後2時 38 分八雲驛に出迎へ、手荷物、旅館等の斡旋に任じたり。

午後4時 23 分虻田驛に下車す。中島、湯川兩實行委員の出迎へあり。此所より洞爺湖行電車に乘換へ、午後4時 30 分虻田驛を發し登坂を走る。車中に回顧すれば虻田平野は噴火灣を控へ、遠く駒岳を一眸に收め狩勝峠の景勝を連想せしむ。峠を過ぎ見晴驛に到れば前面の洞爺湖は一望の裡に展開し遙に蝦夷富士の雄姿を望むや衆皆其の絕景に快哉を叫べり。

午後4時 52 分洞爺湖驛に着す。蒔田、丸一兩實行委員の出迎へあり。一同自動車にて指定旅館に分宿す。溫泉に浴して旅心を新にし、濶衣淸風を容れて渚に立てば、望月東山に浮んで湖面鏡の如し。此の日膽振支廳派遣の杉本技手は膽振宣傳協會寄贈に係る膽振支廳統計要覽、名所一覽及繪葉書を齎し會員に配布せられ、洞爺湖電氣鐵道株式會社支配人田邊義秋氏よりは板澤醫學博士著溫泉療養の栞、繪葉書及會社事業概要を配呈せられたり。(本日氣溫最高攝氏 23·2 度最低攝氏 13·6 度)

第3日 10月8日(水) 洞爺湖觀光

一同遊覽船に搭乘し朝9時 20 分洞爺湖溫泉の岸を發す。天氣淸朗にして風なく暖かに中の島は指顧の間に在り。船は湖面を滑りて壯瞥に向ふ。洞爺湖は略圓形にして周廻 13·5 里四境悉く山を以て遶らす。船中にて日本製鋼所輪西工場長橫田文吉氏は有珠火山及洞爺湖附近の地質を談じ、且つ洞爺湖水力電氣の計畫の大要を說明せられたり。

午前 10 時壯瞥に着陸し、北海道炭礦汽船會社壯瞥發電所を見學し、再遊覽船に乘り午前 10 時 20 分中の島に向ひ出發す。船中日本製鋼所より麥酒及淸凉飮料の饗應あり。午前 11 時 20 分中の島に着す。島は湖水の中央に聳だち中島、觀音島及饅頭島の三島に分かれて相並び、綠樹鬱蒼と繁茂し、千古斧鉞を入れず。中島は最高く海拔 1,380 尺、觀音島には觀音堂あり。一行は觀音島に上陸し或は島岸を周遊し或は湖畔に東北地方特產の「ザリガニ」を捕へ時の至るを知らず。午後0時 30 分船に戻り午餐を喫す。日本製鋼所より麥酒及淸凉飮料の饗應あり。

午後1時 20 分中の島を發し同1時 45 分洞爺湖溫泉の岸に着す。自動車又は徒步にて洞爺湖驛に至り、午後2時 10 分電車にて同所を發し2時 23 分虻田驛に着す。汽車に乘換へ午後2時 50 分虻田驛を發し4時東輪西驛に着す。驛には實行委員石塚、佐藤、蒔田、丸一等諸氏の出迎ふるありて午後4時 30 分室蘭驛に着す。此所に松尾室蘭市長、西塚助役、飯島膽振支廳長、水谷實行委員長、山

田副實行委員長、猪又、黑川、實行委員等の出迎を受け會員は各指定旅館に投宿せり。

此の日日本製鋼所より室蘭大觀、室蘭地方案內圖、日本製鋼所事業概要、繪葉書及砲鋼製小劍等を寄贈せられたり。

此の夜俵會長を初め本會役員等數名の會員は日本製鋼所より招待せられ瑞泉閣に於て歡待を受けたり。(本日氣溫最高攝氏 22·4 度最低攝氏 12 度)

第4日　10月9日(木)　講演會

講演會場は茶津丘の中腹に位せる室蘭市茶津町、日本製鋼所一號役宅として、其の大ホールを講堂に充て諸準備萬端整ひたり。此の日朝來快晴、陸續として參集せる會員 90 名、傍聽者 40 名、新聞記者、速記者各1名にして聽衆堂に滿ちたり。

開會定刻午前9時劈頭俵會長の挨拶あり、次で實行委員長水谷博士は別項に記載せる開會の辭を述べたり。引續き水谷博士司會の下に帆足有志夫氏、高山正寛氏の講演を初めとし、鹽田博士を司會者として河內通氏、梅津七藏氏、岩瀨慶三氏の有益なる研究發表ありて午前の講演を了ふ。晝の休憩時には前面に廣く展開せる製鋼工場を俯瞰し、遠く白鳥灣を隔てて室蘭嶽の連峯を臨みつゝ午餐を喫し會員相互歡談を交へて休憩をなしたり。午後1時より島岡亮太郎氏司會にて井上克己氏、石部功氏の講演、向井哲吉氏司會にて里村伸二氏、山田賀一氏(代講齋藤博士)、俵國一氏の講演、齋藤博士司會にて川口正名氏、向山幹夫氏の講演、久保田省三氏司會にて松浦春吉氏、谷口光平氏の講演あり。何れも年來蘊蓄の研究發表にして聽衆に多大の感動を與へ、夕5時盛況裡に講演の第1日を了へたり。茶津丘に茂る鬱蒼たる森林、聳ゆる瑞泉閣頭、晩鳥群來して頻に淸客を犒ふに似たり。

此の日會員高山正寛氏は石炭業同業組合に於て「鐵と石炭と其の副產物」なる題下にて講演せられ參會會員一同は同夜同組合より招待せられブラザー軒に於て歡待を受けたり。

通俗講演會

10月9日晝間の講演終つて夜6時 30 分より室蘭市女子小學校講堂に於て室蘭市役所及我が鐵鋼協會の聯合主催に成れる通俗講演會を開きたり。先づ室蘭市長松尾豐次氏開會の辭あり、續て日本製鋼所輪西工場長工學士橫田文吉氏は「製鐵の話」と題し鐵鋼一貫の實作業を圖解に依り明快に講演し、東北帝大教授金屬材料研究所長理學博士本多光太郎氏は「鐵と鋼の話」と題し幻燈を用ひ鐵鋼の組織を映寫し平易に其の特性を講演せられたり。何れも土地柄市民の要望に適へる所にして遠く噴火灣沿岸方面よりの來會するものも多く會衆千餘名に達し大講堂も立錐の餘地なき盛況を呈したり。午後8時 55 分講演を了へ、直に活動寫眞の映寫に移り「北海道拓殖實況」につきては北海道廳屬田中耕輔氏熱辯を振はれ、八幡製鐵所所藏の漫畫「鐵公物語」に對しては工學士谷口光平氏快辯を以て說明せられ多大の實益と感動を與へたり。斯くして午後 10 時 35 分俵會長閉會の辭を以て解散したるとき淸夜群星瞬たゝき、灣頭の燈光は水路を導いて明かなり。當夜民衆の爲め有益なる講演をなされたる本多博士橫田輪西工場長、映畫を說明せられたる谷口工學士、田中廳屬に厚謝し、映畫フィルムを貸與せら

れたる八幡製鐵所、北海道廳、會場を貸與せられたる女子小學校長に感謝し、更に當通俗講演會共催の責を帶んで宣傳に準備に盡力せられたる松尾室蘭市長、西塚助役、大越、小島書記の好意に深く感謝の意を表するものなり。(本日氣溫最高攝氏 22 度 最低攝氏 12·4 度)。

第5日 10月10日(金) 講演會 續き

講演の第2日は引續き前日の會場に於て行はれたり。此の日天氣快晴定刻午前9時開會す。多數の傍聽者加はり前日に優る盛況を呈したり。

俵會長の挨拶ありて渡邊博士司會の下に渡邊一郎氏、前田元三氏の講演あり、引續き工藤博士司會にて富山英太郎氏、芦原光太郎氏の講演、井上博士司會にて萩原巖氏、嘉村平八氏の講演あり。何れも有益なる研究發表なるに感じ午前の講演を了へて定刻正午より晝食休憩に移ること前日の如し。午後1時開演本多博士司會し尾藤加勢士氏、吉田清三郎氏の講演あり、續いて村上博士司會にて八濱康和氏、大畑宇治郎氏の講演、山田泰作氏司會にて杉本正邦氏、武林誠一氏の講演、吉川博士司會にて玉置正一氏、蒔田宗次氏の講演あり。何れも有益なる研究發表として聽衆の感動を喚起し午後5時第2日の講演を了へたり。

晩餐會

10月10日晝間の講演會を了へ、夜6時30分より室蘭市大町旗亭常盤に於て懇親晩餐會を催したり。來賓及出席會員合せて 96 名に及び頗る盛況を呈せり。先づ俵會長の挨拶あり。大會の順調に進行しつつあるを欣び、來賓に深謝し、會員を犒ふの辭ありき。次で一同を代表して松尾室蘭市長鄭重なる謝辭を述べたり。之より酒杯動き、佳肴出で紅裙の斡旋するありて交歡談笑の聲漸く湧き會者互に胸襟を開き和氣靄々として堂に滿ちたり。宴酣なる頃舞妓妖艶忍路高島を演ず。情緒纏綿たり。歡興盡くるところなかりしも午後9時宴を閉ぢたり。追直濱(オイチウシ)の靜夜外洋の波徐ろに磯を洗ひ、漁歌幽かに響いて餘音嫋々たり。

第6日 10月11日 工場見學

定刻に近づき會員は室蘭工場第一門前廣場に參集せり。午前9時 30 分石塚室蘭工場長より歡迎の挨拶あり。數班に分れ案內者に導かれて、模型工場、新倉庫等を右方に眺め左方には廣漠たる材料置場を隔てゝ遙に港灣を望む。一同は鑄造工場に入り鎔鋼工場に到り大鋼塊の横たはれるを見る。次で瓦斯發生所を經て鍛錬工場に至り赤熱大鋼塊の自在に鍛壓せらるるを見、近接せる鍛冶工場の小物鍛錬と對照し、熱錬工場、機械工場を經て大陳列館に入る。此所には當社歷訪名門の寫眞及揮毫を高く揚げ、大砲彈丸を初め大小各種の製品を陳列せり。蒔田博士は日本刀について同所刀匠源秀明の作刀並に鍛刀法を說明せり。午前 11 時同館を出で徒步茶津埠頭に到り玆に工場見學了るや俵會長は本日の見學に對し鄭重なる謝辭を述べられたり。埠頭の大起重機は高く聳えて一行を送り、岸壁には巡覽船諸準備を整へて靜に會衆の搭乘を待てり。時に午前 11 時 20 分なり。

港灣視察 甲板の天幕內には食卓椅子を配して固定し周到なる準備成れる巡覽船が艤て會員を滿

載して茶津埠頭を離れたるは午前 11 時 20 分なり。天少しく曇り遠雲風を抱けども未だ先驅の兆至らず。船中にて北海道廳港灣課長中村廉次氏は「室蘭港に就て」と題し室蘭港の施設及將來の企畫につき明快なる講演あり、續て栗林商船會社々長栗林德一氏(代吉田利和氏)は「室蘭港貨物集散概況」についてと題し室蘭港に於ける貨物移動の現況將來の豫想につき流暢に說明せられたり。冷雲遂に低く驅りて風波頻に舷を叩き、正午灣內北岸の元輪西埠頭に到りたれども上陸を見合せたり。此の埠頭には室蘭埠頭倉庫株式會社經營の新設倉庫ありて木材、製紙等大量の貨物を呑吐するに便せり。船は北防波堤に接近し船首廻らし、南防波堤、西部埋立地、室蘭市街、鐵道省高架棧橋等を右方に指呼しつつ巡覽したり。灣內一周を了へて忽々茶津埠頭に歸來上陸したるは午後1時 30 分にして日本製鋼所より提供せられたる晝食を一號役宅にて喫し休憩をなしたり。

當日船中にては尙炭礦汽船會社室蘭出張所長中根正良氏の「室蘭港と石炭」と題し北海道石炭の移動狀況につきての講演、及び札幌鐵道局改良課長高田淸氏の「室蘭鐵道改良工事に就て」と題し石炭搬出の最新施設企畫につき有益なる講演ある豫定なりしも風浪に防げられて船中の樂しかるべき晝食と共に餘機なく中止となりしは遺憾なる次第なりき。一同は此の天然の良港と之を中心とせる現在將來に亘る諸施設を實見、拜承することを得たるを欣幸とし、當日講演に心を盡されたる中村港灣課長、高田改良課長、栗林同商船會社長、中根炭礦汽船出張所長に感謝し、巡覽船其の他準備に盡されたる中根炭礦汽船出張所長の好意に深く感謝を表するものなり。

講演會　續き

10 月 11 日前日來の講演に續いて午後2時前日と同會場にて開會す。久芳道雄氏司會の下に石澤命知氏、中村素氏の講演あり、次に横田文吉氏司會し村上武次郎氏、松永陽之助氏講演し、俵博士司會して佐藤淸吉氏(代本多光太郎氏)、齋藤大吉氏の講演あり。之にて參拾有餘の多數の論文は2日半に亘りて悉く豫定時限に發表を了へたり。最後に俵會長は立ちて別項所載の如き閉會の辭を述べられ、之に應して水谷實行委員長挨拶の辭ありて盛會裡に散會せり。蘊蓄を披歷せる熱心なる講演者と之を傾聽せし熱心なる會員の眞摯なる態度とに、誰か敬意を表せざるものあらんや。本會は有益多趣の研究、所見を發表せられたる講演者諸氏並に司會の勞を執られたる各位に對し厚く感謝するものなり。

研究部會

10 月 11 日研究部會員は一號役室に參集し午後 6 時 30 分より本多研究部會委員長司會の下に日本鐵鋼協會第四回研究部會を開きたり。先づ淺原博士のパイロメーターに就てと題する講演に續いて俵博士の「研究機關に就て」と題する講演あり。次に東京高等工藝學校教授橋本宇一氏は「獨逸に於ける鐵鋼研究所の組織に就て」幻燈を用ひ詳細なる說明ありて午後9時に至りたり。

次に以上3講演を議題とし研究部會員の自由討議あり。又午後9時より別室に於て齋藤博士司會者の下に製鋼關係者の研究小部會開催せられたり。全研究部會は午後9時50分を以て了へたり。(本日氣溫最高攝氏 19·1 度最低攝氏 9·3 度)。

第7日 10月12日(日) 工場見學

一同は輪西工場職員中島、湯川兩氏の出迎を受け午前9時15分室蘭驛を發し、同9時28分輪西驛に下車す。横田輪西工場長、志水職員等の出迎あり。徒歩にて日本製鋼所輪西工場に到る。横田工場長より工場事業の說明あり。同所事業概要、同成績表、繪葉書の配布を受け、工場案內者に導かれ數組に分れて洗炭工場、コークス爐、瓦斯クーラー、硫安工場、タール蒸餾工場、ベンゾール工場、舊コークス爐、燒鑛爐、燒結工場を巡覽して鎔鑛爐に至り、鎔銑流出の狀況を見て第二送風機室にて當工場の見學を了へたり。徒步同工場倶樂部食堂に入り、日本製鋼所より提供の晝食を喫し、瑞泉鍛刀所栞の分配を受け、横田工場長の挨拶に對し俵會長の謝辭ありたり。午後0時50分日本製鋼所提供の自働車に分乘し、一班は研究部會々場に至り、他班は日本製鋼所購賣組合、並に同家族共勵會を視察せり。

日本製鋼所購賣組合視察者一行は志水職員の案內にて同所に到着するや、石塚室蘭工場長之を迎へ、組合長法學士坂本斗一氏業務狀況につき詳細なる說明あり。此の組合は昭和3年全國產業組合大會に於て成績優良と認め表彰せられたるものなり。同場內を一巡して、日本製鋼所家族共勵會に到る。同會理事法學士吉田央氏は一同を迎へ作業場を案內し事業の概要を說明せられたり。

研究部會 續き

10月12日第4回研究部會の續きを午後1時10分より前日と同會場に於て開けり。本多博士の「炭素鋼の熱處理方に就て」と題する講演に續いて吉川博士の「特殊鋼の熱處理方に就て」と題する講演了りたるは午後2時40分にして、以上2講演を議題とする自由討議ありて午後3時50分に至る。次に資源局よりの「科學的研究に關する諮問」につき俵會長、室井委員の說明ありて、之に應答すべき「科學的研究の改善方策」に就きての自由討議あり。午後4時20分本多委員長閉會の挨拶を以て散會したり。本會は此の研究部會に於て有益なる講演をなされたる本多博士、俵博士、吉川博士、淺原博士及橋本教授の各位に拜謝し且つ自由討議に於て有益なる所見を開陳せられたる研究部會委員諸氏に感謝するものなり。(本日氣溫最高攝氏14·6度最低攝氏7·7度)。

登別行 10月12日本日の工場見學或は研究部會を了へたる會員は室蘭驛發午後3時45分、5時3分、7時15分の汽車にて各自登別溫泉に至り旅館に投じたり。地獄谷より混々として涌溢する大熱泉は溪流に漲りて雲を起す。溫槽に浴し溫瀧に洗へば自ら寬潤爽快を覺え前日來の勞玆に於て一掃せられたり。

第8日 10月13日(月) 見學

會員をイ、ロの2班に分ちロ班先づ登別溫泉を發し、午前6時電車に乘じ朝暾に輝く紅葉谷の勝景を過ぎ午前6時33分登別驛に着し、汽車に乘換へ午前6時42分同驛を發し午前7時13分白老驛に着す。驛には白老郵便局長滿岡伸一氏及白老青年團員の出迎あり。團員は白老村長の內意を受け吾

が一行の手荷物保管に盡さんとしたるものにして其の好意を多謝す。滿岡氏の案內に伴はれ土人部落を見學す。酋長熊坂運之丞（アイヌ名シタッピリレ）のアイヌ屋舍に於てアイヌ風俗、熊祭、日常生活等に就て滿岡氏の詳細なる說明を聽取し、午前 10 時 46 分白老發の汽車に乘じイ班に合したり。

イ班は午前9時 20 分發登別溫泉發電車に乘じ午前9時 53 分登別驛に着し、汽車に乘り換へ午前 10 時 6 分同驛を發し車中に於て白老驛より乘車せるロ班と合し午前 11 時 18 分苫小牧驛に着す。王子製紙苫小牧工場よりの社員に出迎へられ、同社用意の自動車に分乘して同社倶樂部に至り、晝食の饗應並に繪葉書の配贈を受けたり。午後1時同社岡崎法學士より工場作業につき明快なる說明を聽き案內者に導かれて工場を見學し了りたるは午後2時なりき。俵會長の謝辭あつて同社提供の自動車に分乘し一班は苫小牧の旅宿に投じ、他班は苫小牧驛に到り午後 2 時 31 分の汽車に乘じ登別に逆行す。午後4時 20 分登別溫泉に歸着して散策し、熱沸の大地獄谷に戰慄し、焦熱の大湯沼に驚嘆して大自然に感じ旅心を新にして寢に就きたり。本會は白老見學に當り說明の勞を執られたる滿岡郵便局長、一行の爲めに配意せられたる佐藤白老村長及同青年團員各位に拜謝し、苫小牧見學に於ては足立工場長、山形事務部長等の好意に感じ、懇篤なる御配意に對し深厚なる謝意を表す。（本日氣溫最高攝氏 18·5 度最低攝氏 8·8 度）。

第9日　10 月 14 日(火)　見　學

昨夜登別溫泉に泊したる班は午前6時同所を發して前日と同樣の鐵路を經午前7時 47 分苫小牧驛に着し、前夜苫小牧に泊したる班と合し午前9時 37 分栗山に着したり。栗山驛には炭礦汽船會社支店直原次長、松藤委員及案內者の出迎へあり。一行は同社提供の夕張鐵道2等專用客車に乘り午前10時栗山驛を發す。車中炭礦汽船會社支店より炭礦案內書其の他の贈呈あり、又茶菓を提供せらる。案內者は車窓より指し沿道の情況を說明せられ、錦澤に到るや溪流を控へて織なす滿山紅葉の展望に淸趣を賞したり。

午前 11 時 26 分鹿谷驛に着す。携帶品は其の儘車中に保管せられ一行は高洲支店長等に導かれ徒步にて倶樂部裏山の茶亭より眼前に展開せる丘陵全山紅葉の秋色を味ひ、遠く石狩平野を隔てて連峯重疊の景致を賞し、倶樂部庭園に到りて紀念撮影を爲したり。午後0時 30 分倶樂部食堂に於て鄭重なる晝食の饗宴を受けたり。宴闌なる頃高洲支店長歡迎の挨拶あり、之に應じて俵會長は感謝の辭を述べられたり。午後2時 15 分徒步鹿の谷に向ふ。午後2時 39 分同社提供の夕張鐵道專用車に乘り鹿の谷驛を發し乘換なく新夕張を通過し、午後3時社光停留所に下車し徒步にて夕張炭礦事務所に到る。歡迎旗は棟高く金風に飜り、紅白の幔幕は道側を裝ひ一行は淸飾の屋舍に入り憩ふ。此所にて藤井礦長より炭礦の情況說明あり、且つ茶菓を供せられたり。午後4時此所を出で有名なる炭脈大露頭に到りて驚嘆し、模擬坑道、選炭場等を見學し、午後5時 25 分社光停留所に戻る。此の停留所より先刻用ひたる夕張鐵道2等專用客車に乘じ栗山に直行したり。午後5時 51 分鹿の谷を通過するとき

高須支店長等の見送りを受けたり。直原支店次長、藤井礦長、松藤委員等は同乘し、車中に於て夕辨當、麥酒、清凉飲料、茶菓等を饗應せられ周到なる接待に預り衆皆感悅す。谷風秋色を誘ひ杣歌溪流に和して情趣轉た濃かなり。車中俵會長は立つて鐵鋼大會の無事終了を祝し炭礦汽船會社の懇情を深謝し、且つ同行山田副委員長等に對し謝辭あり。之に應じ山田副委員長の挨拶ありたり。午後7時8分栗山驛着、此所にて炭礦汽船會社の見送り諸氏と訣れ、會員は札幌、岩見澤の上り方面へ、或は室蘭の下り方面へ各午後7時23分、7時21分栗山發の列車に乘じ南北に訣れ散會したり。本會は夕張炭礦見學に當り炭礦汽船會社が特に歡待に盡されたる好意に深く感謝の意を表するものなり。

初日以來9日間長程に亘れる大會は天候に惠まれ極めて順調にプログラムを施行し得て玆に出席會員全員大滿足裡に終局を告けたり。(本日氣溫最高攝氏 13·4 度最低攝氏 9·8 度)。

隨　意　見　學

常盤商會久慈製鐵所見學 (自10月15日至同18日)本會見學者に對し、あらゆる便宜を與へ、且つ歡迎せられたる同所寺內正太郎氏と常盤商會に對し深甚の謝意を表す。見學者は、居城又男、尾藤加勢士、向山幹夫、(以上3名採鑛場及工場見學)渡邊三郎、梅津七藏、玉置正一、石原善雄(以上4氏工場のみ見學)の7氏なりき。同工場は、岩手縣九戸郡久慈町に在り。(東北本線尻內にて八戸線に乘換久慈驛下車、同驛より約15町)採鑛場は工場を去る約3里の地に在り。同工場は久慈砂鐵を還元處理し、ブリッケットの製造を企圖し、米人技師數名を招聘、數百萬圓資金を投じて建設せられたるが、試運轉半、未だ活動の域に達せざる時、財界の不況と其他豫想外の故障に遭遇して、中止の已むを得ざるに到りたりと聞く、1日生產能力50瓲の回轉式還元爐2基、瓦斯發生爐3基及 1,250 KW 500 KW 發電機各々1基其他を備ふ。原料砂鐵は乾燥後磁選鑛機にて選別、石炭は碎粉、乾燥後回轉式爐にて、骸炭化し、夫々誘導管中を空氣にて送られ、還元爐に裝入せらる。同爐中にて、適當に混合せられ、發生爐瓦斯にて、加熱、還元處理せらる。續いて再び磁選鑛機にて選別せられたる還元鐵は製團機に送られ、ブリッケットに製造せらる。其の計畫と設備の整へるは齋しく感嘆する處なるも、其の活用せられず、空しく寢れるは豈に建設者の遺憾のみならざるなり。猶工場の西北約10町の地に舊熔鑛爐1基あり。元北海道江別にありしものを移轉し約半歲運轉せりと聞く。(目下休止)。目下鐵鋼資源自給問題やかましき現日に於て一日も速かに再起成功を祈る。

釜石鑛山株式會社釜石製鐵所見學 (自10月17日至同19日) 同所が、本會見學者に對し、工場を開放せられ、且つ鄭重なる歡待と懇切なる說明を與へられたるは感謝に堪へざる處にして、同所並に所長西村小次郎氏外諸賢に對し深甚の感謝の意を表す。17日より19日に亘る見學者は、俵會長初め、鹽田泰介、渡邊三郎、西山彌太郎、芦原光太郎、富山英太郎、川上壽、玉置正一、石原善雄の10氏なりき。同鑛山は故田中長兵衞氏經營の後を繼ぎ大正6年3月創立せられ、資本金 2,000 萬圓、鑛山(大橋、佐比內、雄嶽及其他)及工場(釜石町字鈴子にあり)を有す。年產額、銑鐵約 198,000 瓲、骸炭約 23 萬瓲、壓延鋼材約 27,000 瓲、鑛滓煉瓦約 4,000 瓲、硫酸安母尼亞約 3,800 瓲、粗製

ベンゾール約 3,400 瓲等なり。鎔鑛工場、電氣爐工場（フエロマンガン製造）壓延工場、（三重式粗ロール機1基、復二重ロール機2基、三重ロール機1式、再熱爐3基、800 馬力電動機2基、300 馬力電動機2基）骸炭工場（コツバース式及改良型建設中）、製銑工場（250 瓲、300 瓲鎔鑛爐各々1基）製鋼工場（平爐 25 瓲3基、30 瓲1基）副產物工場、コツトレル式高爐瓦斯收塵裝置、2,800 馬力瓦斯送風機2臺、（高爐瓦斯利用目下建設中）及港灣棧橋（水深干潮面 25 呎、7,000 瓲級船舶の繫留安全）を巡覽し、同工場の設備の進步的なるを感ぜり。或は外人1名を招聘し、平爐の改良を圖り、或は燃料の經濟的利用を苦心研究し、其の實績を著々擧げつゝあるは注意すべき處にして、同所長西村氏が「一本の煙突からも煙を出さぬ事をモツトーとして居る」と言はれし事、眞に首肯し得る處なり。

（1）室蘭側實行委員

實行委員長	水谷叔彦	日本製鋼所取締役會長
副委員長	山田泰作	日本製鋼所取締役
同	横田文吉	日本製鋼所輪西工場長

總務委員	石塚　条藏	日本製鋼所室蘭工場長
接待委員	佐藤　政一	日本製鋼所職員
同	中島　三太	同
同	湯川　竹三	同
講演委員	西塚　鎌吾	室蘭市役所助役
同	黑川慶次郎	日本製鋼所職員
同	川口　正名	同
講演委員	蒔田　宗次	日本製鋼所職員
見學委員	猪又　貞雄	室蘭市、膽振支廳課長
同	中根　正良	室蘭市、炭礦汽船會社支店長
同	松藤　實世	夕張、炭礦汽船會社支店
同	打越　光保	日本製鋼所職員
同	志水庄五郎	同
宿舍委員	丸一　左門	同

（2）室蘭側實行援助者

通俗講演に關し

映畫貸與	關屋延之助	札幌市、北海道廳拓殖部長
映畫說明	田中　耕輔	同　北海道廳殖民課屬
斡旋	松尾　豐治	室蘭市長
同	大越　忠	室蘭市役所書記
同	小島　毅	同
講堂貸與	菊地　悌	室蘭女子小學校長
映畫說明	谷口　光平	八幡製鐵所技師

講演會に關し

會場設備	弘瀨　光枝	日本製鋼所職員
會場庶務	高須　靜夫	日本製鋼所職員
同	佐野　長吉	同
圖表整理	八濱　康和	同
會場整理	佐藤　貫一	同
會場整理	小林佐三郎	同
講演速記	三浦　榮一	日本製鋼所速記技術者
同	藤原　唯義	日本製鋼所職員
同	堀江　鐵男	同
同	遠藤　信	同
同	渡邊　和郎	同
同	工藤　誠三	同

講演速記	原　於蒐雄	日本製鋼所職員
同	萩原　巖	同
同	湊　勝宣	同
	白川　松尾	
同	佐藤　良藏	同
同	藤井　信二	同
同	泉谷　彌一	同
同	松尾　丈夫	同
同	大田　雞一	同
同	近藤　八三	同
同	大口　道司	同
同	野村　留吉	同
同	杉浦　榮一	同
同	福田　徹夫	同
同	川原　有美	同
同	原田源太郎	同
同	竹下　賢	同
同	芹澤　正雄	同
同	縫部　正三	同
同	石塚梧一郎	同
同	繩田　菊三	同

見學に關し

洞爺、白老見學	飯島　三次	室蘭市、膽振支廳長
洞爺見學	杉本　墨吉	室蘭市、膽振支廳技手
同	田邊　義秋	洞爺電鐵會社支配人
白老見學	滿岡　伸一	膽振國白老村郵便局長
同	佐藤　隆	膽振國白老村長
同	青年團員	膽振國白老村
室蘭港灣見學	中村　廉次	札幌市、北海道廳港灣課長
同	高田　清	札幌鐵道局改良課長
同	栗林　德一	室蘭市、栗林商會社長
苫小牧製紙見學	足立　正	苫小牧製紙會社工場長
同	山形　武夫	苫小牧製紙會社事務部長
夕張炭礦見學	高洲鐵一郎	膽振國夕張、炭礦汽船會社支店長
同	藤井暢七郎	同　炭礦汽船會社夕張礦長
日本製鋼所工場見學	藤田龜太郎	日本製鋼所職員
同	長井　盛	同
同	結城　竹治	同
同	阿部　象一	同
同	中島　審一	同
同	岡　理喜雄	同
同	伊藤　祐貫	同
同	小野　保太	同
同	佐田　則男	同
同	葛　誠四郎	同
日本製鋼所工場見學	福永　登	日本製鋼所職員
同	橋本　武磨	同
同	石田　稔	同
日本製鋼所購買組合見學	坂本　斗一	日本製鋼所購買組合長
日本製鋼所家族共勵會見學	吉田　央	日本製鋼所家族共勵會理事

第五回講演大會準備經過報告　水谷實行委員長報告

豫てより畫策中なりし第五回講演大會を室蘭市に於て開催せらるゝことに協定成りたるは昭和5年2月12日にして本員は室蘭側實行委員長の委囑を承けたり。本部より提示せられたる日程原案を實行するに必要なる各方面に委員を逐次依頼し大會實施細目案の作成を進めたり。副委員長2名、委員14名。2月19日東京詰山田副委員長來蘭第1回委員會を開き日程變更等につき打合せをなし、3月5

日東京本部委員會へ山田副委員長參會し、見學日程其の他につき協議をなしたり。3 月 14 日第2回委員會にては實行準備の範圍等を協定し、3 月 18 日第3回委員會にては見學、觀光の件につき協議し、3 月 20 日蒔田委員、丸一委員は室蘭市長、膽振支廳長、炭礦汽船會社室蘭賣炭所長を歴訪し打合せをなしたり。3 月 22 日第4回委員會にては夕張方面見學等につき協議したり。蒔田委員、丸一委員は3月27日出發苫小牧、夕張方面に到り見學につき打合せをなし29日歸蘭したり。4 月1日實行細目案原稿成り第5回委員會を開きて協議したり。蒔田委員は此の細目案を携帶し4月1日出發東京本部委員會に參會し打合せをなし、往復の途次仙臺に立寄り見學日取等につき打合せたり。4 月22日第6回委員會を開き本部と打合せたる事項につき協議したり。4月30日湯川委員、志水委員は洞爺湖に到り觀光の次第につき關係者と打合せしたり。8 月 16 日本部より大會プログラム來着したるに依り校正し、8 月 16 日第7回委員會を開き協議の上本部へ返送す。9 月8日川口委員、蒔田委員、丸一委員は市役所西塚委員と會し、通俗講演會の準備につき打合せをなしたり。9 月 27 日第8回委員會を開き講演會場準備、委員補助者、其の他各方面實施準備につき打合せをなしたり。10 月 1日志水委員は洞爺湖に到り打合せを爲し準備を爲したり。10 月 4 日第9回委員會を開き全プログラムに亙り精細なる打合せをなしたり。10 月 7 日横田副委員長外5名の委員は本日洞爺湖泊一行の本部役員と同所に會し向後日程の準備狀況を報告し打合せをなしたり。翌8日本部役員の講演會場臨見を乞ひ其の他の打合せをなし準備の遺憾なきを期したり。斯くて 10 月6日仙臺の見學に始まり洞爺の清遊を經て、10 月 9 日より4日間に亘り室蘭に於ける講演會、研究部會、通俗講演會は何れも盛況を呈し、工場見學、港灣視察を遂げ、12 日の登別泊より 14 日夕張炭礦見學に到るまで順程にプログラムを追ひ完了することを得たり。是偏へに本部役員各位の周到なる御注意と實行に當れる各委員並に援助に當れる諸氏の熱心なる努力の賜に外ならずして深く感謝する所なり。

講演會開會の辭　水谷實行委員長

(昭和5年 10 月9日)

今回日本鐵鋼協會第五回講演大會を此の室蘭市に於て開催せられることになりまして、私が實行委員長の役を仰せつかりましたので、茲に開會の辭を述ぶるに至りましたのは誠に光榮に存ずる次第であります。

本協會の講演大會は今までに東京に2回と地方で八幡市と大阪とで都合4回開催せられました。帝都は申すまでもないことでありますが、地方に於て工業の盛なる近畿に於て大阪であり、北九州では八幡地方であります。夫等の地に於きまして順次大會を催されたることは誠に意義ある事であつたと存じます。

次に此の室蘭を中心にして全國的の大會の催さるゝことは此の鐵鋼協會が實に初めてでありまして、多數の御方が此の南部北海道を視察下さる機會を得ました事は此の地方の爲め誠に仕合せであります。

南部北海道とは石狩以南を指すものと致して、之は北九州に類する所があります。北九州工業地帶に於きましては背(ウシロ)に筑豐の大炭田があり、前には大海に通ずる水運の便がありまして、一葦帶水を隔てゝ本州と連絡が出來ますから種々の工業が多數に此の地方に勃興したのは當然のことゝ存じます。

此の南北海道に於きましては背(ウシロ)に夕張の大炭田を控へ、埋藏 40 億萬噸と計量せられまして九州炭田の埋藏 39 億萬噸を凌ぐ量であります。此の大炭田と連絡し大海に面する港灣としては室蘭、函館、小樽の諸港でありまして、就中室蘭港は天然の一大良港でありまして其の面積は横濱內港の 2 倍ありますから大量の荷物を呑吐するに適してをり、又亞米利加への大航路に於て炭水補給の重要なる港であります。斯樣な地方が一海峽を隔てゝ本州と連絡出來る點に於きまして北九州工業地帶と地勢が能く類似してをると申すのであります。

此の地方の現在の工業の主なるものを擧げて見ますると、

我が鐵業に關係あるものとしては函館の船渠會社、小樽の製罐所、當室蘭の日本製鋼所の室蘭製鋼工場と倶知安褐鐵鑛を控へたる輪西製鐵工場であります。其の他の工業として主なるものは函館の淺野セメント會社、人造肥料會社、製網(モウ)船具會社、酸素會社、小樽の製粉會社、製油所、札幌のビール會社、製麻會社、江別の富士製紙會社、苫小牧の王子製紙會社等でありまして、之が本道開拓 60 年を經過した業蹟の現狀であります。九州に比すれば其の數に於ても種類に於ても未だ寥々たるもので遺憾でありますが既に述べました通り此の地方は素質に於て北九州に似て居りますから將來は工業地として大に囑望せらるべきものと存じます。

更に全道について眺めまするに全面積は九州、四國、臺灣を併せたるよりも尙若干方里廣く、其の人口は年々增加し今は 256 萬人であります。

第二拓殖計畫は既に實施せられてをりますが、昭和 2 年から向ふ 20 箇年に本道歲入超過額を之に當つることゝして、國帑 9 億 6 千萬圓を投じ更に開拓を進め米の產額 7 百萬石に達するものと槪測せられますから人口は 6 百萬になりましても尙 1 百萬石の餘裕があるわけであります。それで東北六縣の人口稠密さまでになれば人口 810 萬人の收容となります。

海陸の天產物は極めて豐富でありまして、1 箇年各種生產總額 5 億 2 千萬圓、道產物が道外へ運び出されるものが昭和 2 年で 4 億 1 千 3 百萬圓でありまして、道內に運び込む品は 4 億 5 千 4 百萬圓であります。而して 20 年後には各種の生產總額は今よりも 3 倍の增額を豫想せられてをります。

それでありますから將來拓殖の行程が進み、無盡藏なる天產資源について堅實なる企業が起りましたならば本道一般の產業は著しい發展を見るものと期待せられますから勢ひ本邦の鐵鋼業も之に伴うものと存じます。

實行委員は本協會からの御命を受けまして、皆樣が洞爺湖へ御着以後の行動について夫々手配を致したるつもりでありますが、諸設備につきましても萬事不行屆のことがありまして、遠來の御方の御期待に添はぬことが多々あることゝ存じます。之は土地柄止むを得ぬ所もありますので其の邊宣しく

御諒察を願ひます。

斯樣な僻遠の地であるに係らず遠近各地から多數會員の御參會あり、且つ多數の有益なる論文の發表せられるを感謝すると同時に本協會の爲めに御同慶に存ずる次第であります。

講演のことについては講演司會者の方の御指圖に依つて戴きたい。

終りに一言申しますが此の大會を當地に開催するについて關係官廳、北海道炭礦汽船會社、其他石炭組合、苫小牧王子製紙會社が好意を以て御後援下されたことを茲に深謝致します。　以上

講演大會閉會の辭　（昭和5年10月11日）

日本鐵鋼協會々長
東京帝國大學教授　俵　國一

私から閉會の辭を述べます。

只今で全く滯りなく第五回講演大會が終了致しまして誠に御同慶に存じます。斯く滯りなく濟みましたに就きましては色々の方面の方々に御世話になりました。厚く此の席から會長と致しまして御禮を申上ぐる次第であります。

今回此の講演大會を開くに就きましては此の春前會長服部博士の御在任中に略々理事者の間に決定致しましたので、早速東京の日本製鋼所の本社に水谷博士を御伺致したのであります。實は時節柄如何かと思うて心配しながら御願したところ、即時に快よく御引受け下さつた次第でありまして、爾來水谷博士は勿論のこと、其の他の實行委員を始め東京或は室蘭に居られます方々がそれぞれ職務を分擔され大會開催の準備を致されました。私などは其の爲め度々往復された文書を見た丈で大變だと思つた位大多忙を極められたのであります。

御蔭をもちまして詢に順序よく準備が備ひ去る7日北海道に入りまして以來或は見學に、或は遊覽に又講演會場に於きましても詢に順序よく運びましたと云ふことは、嘸かし會員御參會の諸君も御滿足に思つて居られることゝ察するのであります。

又此の講演會場に於きましても、講演係の方々が掛圖其の他萬事萬端是以上はないと思ふ位迄極めて細かい點迄御注意下さいまして詢に行屆いたことで御座います。御蔭をもちまして都合よく此の講演會を終ることが出來ました次第であります。私は鐵鋼協會を代表致しまして茲に實行委員長水谷博士を始め諸係の方々に厚く御禮を申上げます。

尙35名に達する講演者が2日半に渉りまして平素御自分の研究なされた事柄を發表になり、時間が尠くて御氣の毒の點がありましたことを遺憾に思ひます。聞いて居りました私でも各研究所、工場でよくもこゝ迄發表されたと思ふ點も多々あるのであります。是等のことに就きましては講演者諸君に厚く謝意を述ぶると同時に、講演者諸君の御在になる研究所、工場等の主腦者が飽く迄吾國工業の發達研究を助けるといふ御考へから、其の研究發表を許されたことを私は會員一同と共に深く謝するのであります。

尙2日半に渉りまして會員諸氏が熱心に聽講されたことも私達理事者の感謝に堪へないところでご

ざいます。實は大會開催地を當室蘭に定めますには、理事者の中には心配して居つた者もある位であります。何分遠隔の地でありますから或は參會する人が尠くはないか、さうすれば御願した日本製鋼所に對しても濟まぬと頭を傷めて居つたのであります。

私は先年イギリスの鐵鋼協會大會に參りました時に參會者は多數あつたに係らず講演を聽講する人は僅に其內數十名に足りないこともあり、其の奮はないのに驚いたことがあります。如何に日本の方々が此の研究に目をつけて居られるかといふことを感じたのであります。唯憾に思ひます點は時間の關係上充分なる質疑應答が出來ませんでした、之に就て將來能く考慮し度いと思ひます。此の點に於て再び講演者及參會者諸君に深謝し且つお詫する次第であります。

斯く盛會裡に滯りなく講演會を閉會するに當りまして重ねて此の講演會に盡力をして下さいました日本製鋼所の方々は勿論北海道廳、又は室蘭在留の官民各位に御禮を申上げると共に拍手を以て此の講演會を終りたいと思ひます。(拍手)

閉會に當り挨拶の辭 (昭和5年10月11日)

實行委員長 工學博士 水谷叔彦

未だ當地に於てのプログラムは殘つて居りますが、明日は皆さん御集りのこともないと存じまして、此の席で實行委員を代表致しまして御挨拶を申上げます。

只今會長から御懇篤なる謝辭を戴きまして詢に有難う存じます。實行委員は本會の色々の御指圖を受けまして出來るだけのことは致したのでございます。幸に天候が非常に宜しうございましたから、今日迄はプログラム通り滯りなく進行致しまして、實行委員の方に於きましても詢に滿足を致して居る次第でございます。

此の先は未だ御見學のこともありますが、どうか此の天氣が續きまして、皆さんの御歸りになる迄今日のやうな日が繼續せむことを祈つて居る次第でございます。甚だ簡單でございますが是を以て謝辭と致します。

拍手裡に散會せり